



イベント  
フォトギャラリー

4月24日(月) JAIにしはら  
親子健康手帳ケース贈呈



今年もJA沖縄共済連沖縄県本部、JAおきなわ西原支店より、「親子健康手帳ケース」120個の贈呈がありました。これはJA共済地域貢献活動の一環で、安心して子育てができる環境づくりの支援を目的として行われています。

7年目となる今回の手帳ケースにはヤンバルクイナやイリオモテヤマネコがかわいらしく描かれており、子どもたちに喜ばれるデザインとなっています。また、ケースは診察券などのカード類や筆記用具が収納でき、使い勝手がいいと好評です。

西原支店の<sup>とうやまひで</sup>當山秀樹支店長は、「これからも地域貢献できる活動を続けていけるように励んでいきます」と話しました。＊ケースは、親子健康手帳の発行時に役場窓口で配布しています。



4月24日(月) 国際的な人材育成のために！  
琉球大学グローバル実践演習で町長講話



琉球大学による学生の地域交流や国際交流をとおして国際的な人材を育てる活動「グローバル実践演習」が行われています。活動の一環で西原町が抱える課題を探るため、<sup>さきはら</sup>崎原町長による西原町の概要や主要施策についての講和が行われ、外国人留学生を含む50人が受講しました。

<sup>さきはら</sup>崎原町長は「文教のまち西原」の歴史や文化、まちづくりの将来像として西地区土地区画整理や大型MICE施設、モノレール延伸などについて講義しました。

質疑応答では、バス路線の拡充やMICE施設の経済効果、環境保全の計画などについての質問が挙がり活発な意見交換が行われました。

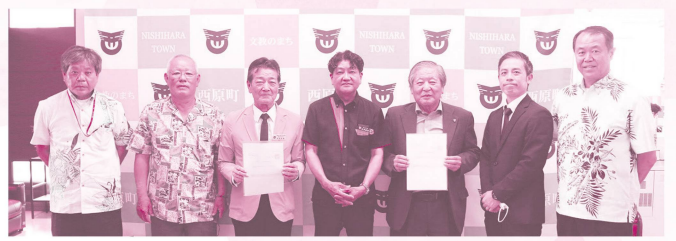
<sup>さきはら</sup>崎原町長は「町の課題として、保育士不足や子育て支援、福祉の向上が必要である。若い人達が住みたいと思えるようなまちづくりに取り組んでいく」と述べました。

今回の講義を受け、学生達による成果報告を含む高校生や住民を巻き込んだ交流イベント(グローバルフェスタ)が7月22～23日に町民交流センターで行われます。

4月24日(月) なぎなた高校男子個人  
全国制覇！！



4月13日(木) 自治会活性化のために  
コミュニティ助成事業決定通知式



自治総合センターが行う「令和5年度コミュニティ助成事業」の助成団体として<sup>しほ ませいしめ</sup>棚原自治会(城間盛順会長)と<sup>あさとまほろ</sup>幸地ハイツ自治会(安里優会長)が選ばれ、決定通知式が町役場で行われました。

<sup>さきはらせいしゅう</sup>崎原盛秀町長は「地域を盛り上げようとする思いが素晴らしい。地域活性化のために有効に活用していただきたい」と述べました。

棚原自治会は自治会公民館の建替え、幸地ハイツ自治会は公民館のエアコン設備・備品購入に助成されます。

4月22日(土) 西原きらきらビーチ海開き



西原きらきらビーチで3年振りとなる海開きが行われ、多くの人で賑わいました。

海開きでは、安全祈願祭や関係者のテープカットの後、棚原ミルク太鼓を皮切りにダンスや歌のオープニングアトラクションが披露され会場を盛り上げました。

子どもたちはビーチバレーコートでの宝さがしゲームやバナナボート無料体験におおはしゃぎしながら初泳ぎを楽しんでいました。

なぎなた全国大会の優勝報告のため<sup>せながひろむ</sup>瀬長拓夢さん(知念高校2年)が祖母の<sup>まえしろのりこ</sup>真榮城紀子さんと姉の<sup>ももこ</sup>桃子さんと役場を訪れ、優勝報告を行いました。

<sup>ひろむ</sup>拓夢さんは3月に兵庫県で行われた第18回全国高等学校なぎなた選抜大会の男子個人試合で優勝し、全国制覇を成し遂げました。

<sup>ひろむ</sup>拓夢さんは「多くの支えがあって優勝することができました。応援ありがとうございます。これからも頑張ります」と笑顔で話しました。



4月29日(土) 第16回梅の香り歌遊び大会



琉球民謡「梅の香り」を歌い腕前を競う第16回梅の香りうた遊び大会(向実行委員会・小那覇自治会主催)が小那覇児童公園特設会場で開催されました。

「梅の香り」は小那覇出身の故新川嘉徳が作詞作曲した名曲で、地元の音楽家の功績を継承し広く知ってもらうことを目的に歌碑の前で大会を開いています。

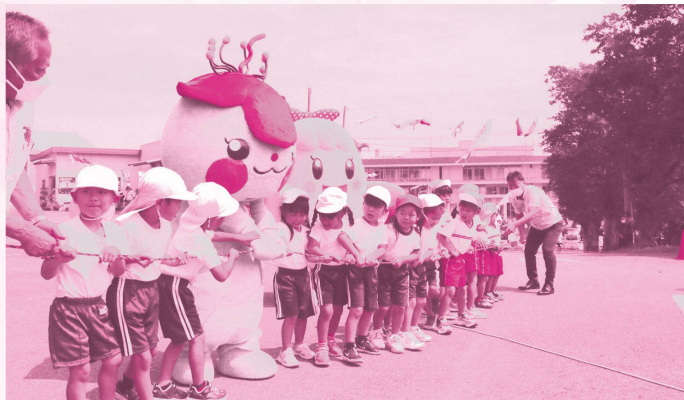
5年ぶりとなる今大会は、15歳から72歳までの町内外12人がエントリーし、西原町在住の宮城克幸さんが大賞に輝きました。

宮城さんは「3年前に読谷村から西原町へ引っ越してきた。憧れの『梅の香り』で大賞を獲れてとてもうれしいです」と笑顔で話しました。

会場はイス席が埋め尽くされ、立見や場外にも観客があふれるほど賑わい、夕暮れに美しい歌声と三線が響き渡っていました。

大賞	宮城克幸(西原町)
優秀賞	伊江里菜子(那覇市)
特別賞	中一憲(宜野湾市)
奨励賞	貝志堅梓(八重瀬町)

4月27日(木) 天高く 青空泳ぐ！  
こいのぼり掲揚式



西原町中央公民館の駐車場で手作りこいのぼり掲揚式(西原町社会福祉協議会主催)が4年ぶりに開催されました。町内8か所の幼稚園・保育園から100人あまりの園児が参加しました。

町社協の大城幸哉会長らと園児と一緒に綱を引き、こいのぼりが揚がると大きな拍手が起こりました。

崎原町長は「青空を泳ぐこいのぼりのように、すくすくと元気いっぱいに育ててください」と園児に向けあいさつしました。

園児らはこいのぼりの歌を大合唱し、さわりんと一緒にダンスを披露し、笑顔あふれる掲揚式となりました。

会場のこいのぼりは西原町電設会の協力で空いっぱいに飾られました。



文化財  
77A

西原町の「負の遺産」

西原町内には、数多くの戦争遺跡があります。種類としては、住民が避難する壕跡や旧日本軍が使用していた壕跡、役場の重要書類を保管するための役場壕跡、弾痕が残る石塀、塹壕跡、銃眼跡などです。また、戦争遺跡だけでなく、本町のいたるところで沖繩戦の遺物が土の中に残っています。もちろん不発弾なども例外ではありません。

これら負の遺産(※1)を保存・活用するためには、様々な課題がありますが、その中で、現在本町が保存・活用を図っている主な戦争遺跡や戦争遺物について一部紹介します。

【①旧西原村役場壕(町指定史跡)】

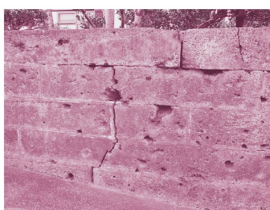
沖繩戦当時、字翁長に所在していた西原村役場の重要な書類を保管するために掘られた壕です。大きな開口部(南東側)は一九八〇(昭和五五)年ごろの土取り工事で掘削された際に開いた箇所、壕本来の出入口は、北東側(西原町学校給食共同調理場(※2)向け)にある二箇所となっております。

【②小波津弾痕の残る石塀(町指定史跡)】

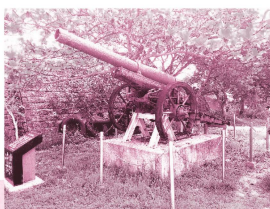
一九三五(昭和一〇)年に貝志頭村字



①旧西原村役場壕(翁長)



②小波津弾痕の残る石塀(小波津)



③96式15榴弾砲(与那城)

港川(現・八重瀬町字港川)で切り出された牧港石灰岩(琉球石灰岩の一部で、薬石とも呼ばれる)を使って建造された石塀です。石塀の表面には、銃弾が撃ち込まれた跡が多数見られます。

【③九六式十五榴弾砲】

西原町中央公民館の敷地で屋外展示されている大砲です。沖繩戦で旧日本軍が使用していたもので、二〇〇四(平成一六)年に字幸地で見つかった旧日本軍の陣地壕跡(現在消滅)から出土した遺物です。国内で現存する資料としては希少なものです。

これらの戦争遺跡や戦争遺物は、戦争の悲惨さや命の尊さ、平和の大切さを教えてくれる貴重な遺産です。当時の西原村住民のほぼ半数である五一〇〇名余の命が奪われ、あたり一面が焼け野原になるなど、沖繩戦で大きな被害を受けた歴史をもつ西原だからこそ、戦争の記憶を残す負の遺産を、後世へ継承していく必要性があると考えます。

※1 ここでは、不発弾等の危険物を除いたもの。  
※2 当時、西原村役場があった場所。

お問い合わせ 文化課 文化財係 ☎94414998